

## 結の故郷ふるさと学習交流会について

### 【提案】

結の故郷ふるさと学習交流会の開催の有無について検討したい。

### 【理由】

#### ①これまでの取り組みの成果が見られる。

- ・ 8年間の交流会（隔年発表なので実質は各校4回発表）を実施したことにより、大野市教育方針にある「ふるさとを知り、ふるさとを創る学習の充実」事業によるふるさとの誇りと愛着を育てることには一定の成果があった。
- ・ 各校の総合的な学習の時間や学校行事等で、地域の人材や環境、歴史・文化を生かしたふるさと学習の充実が図られた。
- ・ 毎回90名前後の保護者参観があり、教育委員会の事業として発信することができた。保護者からは「各校の子どもたちがふるさと大野について真剣に学んでいることが分かった。」「改めて大野のすばらしさを実感し、これがずっと続くよう大人も協力していきたい。」などの感想があった。

#### ②今後も、各校は総合的な学習の時間での取り組みを継続し、学校・地域で発信していく。

- ・ 各校のふるさと学習は今後も継続される。すでに、校内で学習発表をしている学校や地域行事に参加している学校があり、家庭・地域に積極的に発信をしている。
- ・ 今後は、DVD や遠隔システムを利用して、各学校の交流を進めることも可能である。

#### ③新学習指導要領改訂に伴うカリキュラム（教育課程・指導計画）マネジメント推進の必要性がある。

- ・ 新指導要領改訂による学習時間の増加（外国語科・外国語活動）に伴い、各校がカリキュラムマネジメントを推進し、学習内容や活動の見直しを進める必要がある。
- ・ 文化会館で発表をするためには、発表に仕上げるまでにかかなりの時間と労力がかかってしまう。他の教科を削って発表に間に合わせないといけないのが現状である。各校の実態や子どもたちの思いに合わせた探究活動をして、深い学びを追及することが大切である。

## 【推進委員からの事後アンケートより】（○成果 ●課題）

推進委員 12名（校長会代表 1名、教頭会代表 1名、小学校教務主任 10名）

### H28 年度

- 子どもが肉声で堂々と発表する場、とてもいい経験になる。
- 地域に密着しまちづくりに参画した取り組みは、生きる力を育む総合の取り組みの参考になる。
- 2学期は行事が多く、練習にも時間をとられるため授業の進み具合が心配だ。

### H29 年度

- どの学校もそれぞれの地域の特色が出ていて素晴らしい発表だった。
- 「踊り」を習い、児童たちが踊れるようになったことはとても良かったし、思い出にもなったが、発表させようとするとなんかの時間が必要でやりくりが困った。
- 発表を見せあうというのは、確かに子どもたちのためになる。しかし、より深い学びを目的とするならば、遠隔システムを使ったり、DVD を作成して学校で生かしたりするほうが、より目的の実現につながるのではないか。

### H30 年度

- 大勢の場（他校の児童や保護者）で発表することは、学習活動の目的としてはよい。
- どの学校もとても素晴らしい発表で、保護者の評判も良かったため、他校の発表を見る意義が感じられる。
- 各校の発表を見て、子どもたちは刺激を受けており、新しい学びもあったようである。自分たちのがんばりにも達成感を感じていた。
- 篠笛や和太鼓の講師に、ボランティアとして快く協力いただいている。
- この交流会を実施することに価値はある。しかし、実施からかなりの年数が経ったこと、発表に仕上げるまでにはかなりの時間と労力がかかってしまうことなどを考えると、交流会の実施自体を再考してみるのも良いかと思う。
- 中学年の総合的な学習の時間では、自分たちの地域について課題を見つけたり、調査したり、表現・発信することが大切である。
- 総合的な学習の時間は探究活動が主になるべきだが、発表練習にどうしても時間がかかってしまった。発表のための学習ではなく、各校の実態や子どもたちの思いに合わせた長いスパンでの探究活動をさせたい。発表も本校は、校内や保護者・地域などいろいろな設定で行っているのも十分である。
- 発表の準備や練習に割く時間があまりにも多く、他の教科を削って発表準備に回さないといけないのが現状である。全国学力調査の大野市の結果も踏まえると、ふるさと学習交流会のあり方を検討する時期にきていると思う。
- 児童数が減少していて、3、4年生だけの発表では厳しくなってくる。「5、6年生が加わることも可能」とあるが、5、6年生の総合の目的や活動内容は、3、4年とは異なっているため、5・6年生と一緒にすることは厳しい。